Vol. XIII, Pt. 1, 1962

蝶と蛾 Tyô to Ga

(Transactions of the Lepidopterological Society of Japan)

八重山群島の蝶類（I）

中村一郎[1)]・久保快哉[2)]

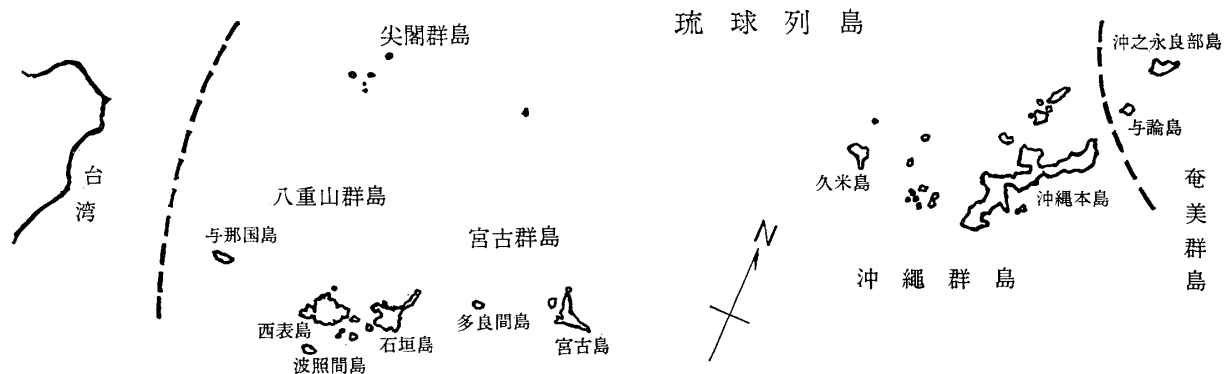
Notes on the butterflies from the Yaeyama-Islands, with the list of butterflies collected by the authors. (I)

By Ichiro Nakamura and Kaiya Kubo

1960年，61年の夏，私達は各々異った日程により沖縄本島及び八重山群島に於いて主に蝶を採集し，そのかたわら生態面の観察にも努力した．短期間に主な島を歩いたのみであるが，その結果若干の新知見を得る事が出来たので，ここにその目録と観察結果のあらましを報告したい．ただ，私達の無学と経験不足のために，極めて中途半端なものになってしまい，誤りもあろうかと思うが，私達の観察結果が今後同群島を訪れる方々の手によって補われ，より完全なものとされる事を期待すると共に，私達自身も機会があれば，再び彼の地を訪れたいと切望している．

この旅行に当っては，琉球大学高良鉄夫博士，同ヘルスセンター主任吉田朝啓氏，琉球植物防疫所東平地清二氏，八重山農業試験場東平地清正氏，八重山保健所安仁屋賢一氏，他現地の多くの方々にひとかたならぬ御世話になった．又，終始私達の行動に対して御指導下さった九州大学白水　隆博士，磐瀬太郎氏，原　章氏，福田晴夫氏，若林守男氏，植物同定の労をとられた中島暉躬氏，大井次三郎博士，長田武正氏，堀田満氏及びこの旅行に同行し，協力を惜しまれなかった茂木幹義氏，西山伸吾氏に厚くお礼申上げる．又，特に白水　隆博士には採集品の一部の同定を，若林守男氏には写真をお願いした．ここに特記して深謝の意を表したい．

以下に私達の日程を略記するが，ここに見られる通り，私達の行動は多くの場合別々であって，この報文中の個々の観察も単独でなされた場合が少くない．そのような場合には責任の所在を明らかにするためにいちいちことわった．見苦しい点はお許し願いたいと思う．

久保：　1961年7月21日羽田発，同日那覇着．沖縄本島にて採集の後，8月1日石垣島着，同島各地で採集し，8月7日中村と同行して西表島租納へ．13日石垣島へ戻り，15日空路那覇へ．19日羽田へ帰着．（久保は日程の

1)　兵庫県宝塚市小林字西山26　　2)　東京都渋谷区美竹町10

都合上，その他の離島及び与那国島へは行けず，宮古島でもほとんど採集出来なかった．）

中村： 1960年7月16日神戸発，19日那覇泊港へ．28日那覇発，翌29日石垣島着，この間沖縄本島では台風6号のためほとんど採集出来なかった．石垣島でも相続く台風のため成果上らず．8月12日西表島白浜へ，ここでも台風に閉じ込められ，台風通過後最初の便で22日石垣島へ．同日石垣島を発ち，那覇をへて27日神戸港へ帰着．（この年ほど台風の多い年もあまりなかったらしく，蝶の採集には最悪の年であった．）

1961年7月21日神戸港出発，24日那覇へ，翌25日那覇を発ち，26日石垣島着．翌27日石垣島を発ち28日与那国島租納へ．同島で採集の後8月1日石垣島へ戻る．8月3日西表島租納へ，翌4日租納を発ち浦内川をさかのぼって西表島を横断，5日深夜に同島東部の古見に着き，さらに大原へ．翌6日，大原より石垣島へ渡り，7日，久保と共に再び西表島租納へ．13日，石垣島へ帰り各地で採集の後，17日発つ．翌18日，那覇に着き，沖縄本島で採集の後，奄美大島をへて28日鹿児島港へ帰着．（この年は前年とは逆に，台風もほとんど近づかず，終始好天に恵まれた．しかし，他の離島へ足をのばす暇のなかったのは心残りであった．尚，宮古島では前年同様，船の荷役中，2時間ばかり上陸して採集したにすぎない.）

はじめに——八重山群島の概説

沖縄，特に八重山群島は，私達，ことに戦後の世代の者にとっては，あまり良く知られた存在ではなく，恐らく具体的なイメージを浮かべ得る方は少ないものと考える．そこであえて下記の如き簡単な「概説」を加えることとした．まず最初に地理的な名称についてひと言述べたい．

鹿児島県最南端の与論島と台湾との間に弧状に点々とつらなる島々は地図の上ではひとつながりの黒点列ではあるが，大別して北から沖縄群島，やや離れて宮古群島，八重山群島の3群島に分かたれている．通常ひとまとめにして沖縄列島又は琉球列島と呼ばれ，特に宮古，八重山の両群島のみは，まとめて先島列島とも呼ばれる．これらの島々は緯度の相異や，島の成因その他によって各島毎の動植物の分布状態は種々様々であって，一括し

て述べるのは適当でない．特に従来の報文，参考書等では，これらの地理的名称が不用意に用いられ，甚だしいものは奄美群島をも含めて混同していたり，ひと口に「琉球」又は「沖縄」とのみ書かれたものが見られ，分布の判断上，非常に繁雑さを感じさせるばかりか，厳密性を欠いている．この意味で，今後はこれらの不明確な云い方を極力さけ，記録等も各島毎に整理する事の必要性を痛感する．

さて，八重山群島は石垣，西表，与那国及び附近に散在する小さな島々から成り，北緯24度と25度の間に位置し，緯度の上からは台湾の中，北部にあたっている．

琉球列島の地層配列が内側から火山島列，古生層列，第三紀層列の３列から成る事は周知の通りであるが，八重山群島でもこの配列は崩れていない．石垣島北部には死火山野底マーペを中心に火山岩地帯があり，中，南部と西表島の北東端は古生層を形成する粘板岩，砂岩から成り，西表島はほとんど全島が石炭層を含む第三紀の泥

板岩，砂岩である．これらの島々は何度となく隆起と沈降をくり返しているため，珊瑚石灰岩も随所に見られる．とりわけ，石垣，西表両島以外の島々は主として珊瑚石灰岩である．与那国島は第三紀層と珊瑚石灰岩から成り，極端な台地状を呈し，周囲を高い絶壁でかこまれている．従って，石垣，西表両島は山地性であるのに反し，他の島々は平端で植物相も貧弱である．石垣島は琉球列島中の最高峰であるオモト岳（526m）を有するが，早くから人が入り，比較的開けている．しかし，近接する西表島は，陥没地形で平野に乏しく，全島が後述するような気候の好条件に支えられて豊かな原始林におおわれており，ノヤシの群落や，よく発達したマングローヴの林など，他の島々とは異った特異な景観に富んでいる．マラリアの猛威によって，この島は近年まで，ほとんど開発されず，最も良く原始状態を保っている事はよく知られている．

気温について西表島租納測候所の資料を見ると，盛夏7月の月平均気温は28.7°C で，島が小さく直接海洋の影響を受けるため，そう高くはならず，今までの最高気温は34.8°C である．これで見ると比較的涼しいように思えるが，直射日光の下では耐えがたいほどの熱暑である．しかし，日中でも日陰では過ごしよい．又，冬期の最寒月たる1月の月平均気温は17.4°C であって，年頭にはすでに桜の開花を見ると云う．そして，春は短かく，4月に入れば最高気温30°C になる日が出現し，5月には雨期となって6月中旬まで続く．台風は11月頃まで接近するものがあり，この頃でも残暑は厳しい．冬になると夏とは逆に北東の季節風が吹き，風の強さも増し，この強風と小雨の連続で陰うつな日が多くなり，海は波が高くなって，離島へ向う船も欠航する事が多くなる．

降水量は年平均2000mmを越え，西表島の浦内川の如きは常に満々たる水量を誇っており，川の大きさは大陸的である．しかし一方石灰岩地帯では時として水不足に悩む事もあると云う．

湿度も当然高く，西表島では年平均81%であって，特に梅雨期から台風期にかけては蒸し暑い．最も乾燥する10，11月でも76%程度である．

尚，八重山群島或いは広く沖縄列島の蝶相に関する文献は戦前にはかなりあるが，これらのリストは，T. Takara "Provisional list of butterflies in the Ryukyu Islands" (1956) にくわしいので，特に挙げなかった．それ以後の主要な文献としては，尾本（〃蝶と蛾〃：10(2)，(3)，(4)；11(1)）等がある．

食草及び幼生期について

ここでは食草，卵，幼虫，蛹に関する部分だけをまとめ，成虫の生態等は目録のところに書き加える事にした．

1　オキナワビロウドセセリ *Hasora chromus inermis* Elwes et Edwards

石垣島川良山で♀の産卵行動を観察した．ここには道路脇に約10m位の間隔をおいて高さ数mのかなり大きなクロヨナ（*Pongamia pinnata* Merr）が数本あり，いずれも落葉していた（しかし，附近の山中や他所で見たクロヨナはすべて青々としげっていた）．夕刻，これらのクロヨナにおびただしい数の本種が集まり，あるいは枝先に静止してピンク色の卵を産んで飛び立つもの，2頭時には数頭がすばらしい速さで追飛するもの等が見られ，ひとたび幹をゆすれば20〜30頭が群飛すると云う壮観であった．♂もいたようだが，大部分は♀であった．

2　アオバセセリ *Chaospes benjaminii formosana* Fruhstorfer

石垣，西表両島でリュウキュウアワブキ（*Meliosma Oldhami* Miq.）にて多数の幼虫や空巣を目撃した．

3　コウトウシロシタセセリ *Tagiades trebellius mortinus* Plötz

8月15日，久保は石垣島川良山入口の苗圃内でヤマノイモ科のダイジョウ（*Dioscorea alata* L.）に特徴ある食痕（いわゆる巣）を見つけたが，あいにく時間がなく，蛹殻2ケと多数の食痕を得たのみであった．久保は島を離れねばならなかったので，中村がこの後を受け，同日，裏石垣での採集から帰った後で，同じ場所へ行き，東平地清正氏の協力を得て卵と若令幼虫を見出した．翌16日には，やはり川良山の他の場所で同科のソメモノイモ（*Dioscorea cirrhosa* Spreng.）から卵殻と若令幼虫の食痕を見出した．

卵は食草の葉の表面先端部に中脈にそってたてに1〜3個並べて産付されており，母蝶の体毛をかぶっていて，そのままの色は灰褐色である．幼虫は若令のものしか見出し得ず，飼育も不手際で失敗したため成熟したものを見

る機会がなかったが，頭部は黒色で，前から見た形はハート型である．胴部はダイミョウセセリ等と同様に白い．蛹は大きな三角形の銀白色紋を有し，ダイミョウセセリによく似ている．

4 ネッタイアカセセリ *Telicota colon stinga* Evans

中村は西表島租納，白浜間の路傍のススキ（*Miscanthus sinensis* Anderss.）より本種の終令幼虫を1頭得た．幼虫は巣を作り，頭部は褐色で中縫線及び前頭縫線は細い黒帯を形成し，特徴的である．この幼虫は蛹化，羽化させた．尚，石垣島バンナーでも同一の特徴を有する数頭の幼虫をススキ及びアシボソ（*Microstegium* sp.）にて目撃した．成虫はあまり多くないが幼虫は比較的容易に見つかるので，その気になれば多数の良い標本を得る事も出来よう．

5 ジャコウアゲハ *Byasa alcinous bradanus* Fruhstorfer

西表島租納の林縁に於いてリュウキュウウマノスズクサ（*Aristolochia liukiuensis* Hatsusima）より1蛹及び終令幼虫1頭を得た．

6 アゲハチョウ *Papilio xuthus xuthus* L.

西表島星立にてカラスノサンショウ（*Fagara ailanthoides* Engl.）葉上に1老熟幼虫を見出した．

7 カラスアゲハ *Papilio bianor junia* Jordan

久保は石垣島川良山の林道にて本種♀がハマセンダン（*Evodia glauca* Miq.）に産卵するのを目撃した．

8 *Appias* sp.

中村は与那国島久部良附近でギョボク（*Crataeva religiosa* Forst.）より1若令幼虫を得て蛹化させたが，羽化に失敗し種名の確認が出来なかった．しかし蛹の形態から *Appias* である事は確実である．

9 ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe cincia* Fruhstorfer

与那国島ではギョボクから多数の卵と幼虫を見出した．ギョボクは与那国島ではかなり多いが，西表，石垣両島でははるかに少ない．

10 ウラナミシロチョウ *Catopsilia pyranthe pyranthe* L.

石垣市内及び裏石垣の吉原でハブソウ（*Cassia occidentalis* L.）にて多数の卵及び各令幼虫を見出した．

11 ギンモンウスキチョウ *Catopsilia pomona* Fabricius

12 ムモンウスキチョウ *Catopsilia crocale* Cramer

8月9日，西表島租納，白浜間の美田良橋附近で高さ約3mのマメ科のタガヤサン（*Cassia siamea* Lam.）で産卵中の本種を久保が見つけ，2人で蛹殻，卵，各令幼虫を多数見出した．この時及び11日，同島星立，稲葉間の同一植物から得た幼虫約10頭からはいづれもムモンウスキチョウが羽化し，両日ともムモンウスキチョウとギンモンウスキチョウが附近を飛翔しているのが見られたにもかかわらず，ギンモンウスキチョウは出なかった．しかし，石垣市在住の東平地清正氏の久保宛の私信によれば同年12月に飼育の結果，同一樹より得た幼虫から双方羽化したとの事で，両種ともタガヤサンを食樹としている事が確認された．又，同氏によれば12月10日現在，農業試験場構内のタガヤサン（台風の後に発芽）の新芽にはほとんど葉を喰いつくすほどの多数の幼虫が見られた由である．尚，〃Zephyrus〃誌上で故正木任氏が石垣島測候所構内の「鉄刀木」をウスキチョウの食草として記録されたのはまぎれもなくタガヤサンである．本植物は印度原産の栽培種で，石垣．西表両島や沖縄本島では主に旧部落跡や部落の中，校庭，山道等に散見される．

若令幼虫は新芽のまだ開ききらない複葉の中脈上に静止しており，3令以後は開いた葉の中脈上に見られるようになる．幼虫の色彩は淡い緑色で，側面を走る淡黄色帯の発達程度にかなりの個体変異が認められる．

蛹化は多くの場合，下枝の葉裏や下草の間で行なわれるもののようで，蛹殻もそのような場所から見出した．

13 タイワンキチョウ *Eurema blanda arsakia* Fruhstorfer

久保は石垣島川良山で本種♀がマメ科のナンテンカヅラ（*Caesalpinia Nuga* Ait.）の新芽で産卵らしき行動をとっているのを目撃したが，この植物が蔓性で木々をおおうように生えているためと，新芽にまで生えている

鋭いトゲのために自由にならず観察を中止したので結論は得られなかった.

14　スジグロカバマダラ *Salatura genutia* CRAMER

中村は7月28日，与那国島宇良部岳のふもとで本種の各令幼虫を得，羽化させたが，その後，久保も8月6日オモト岳登山の帰途，名蔵側山腹にて♀の産卵行動を目撃し，卵数個を得た．いづれの場合にも食草はリュウキュウアサギマダラの食草ガガイモ科のツルモウリンカに酷似のもの（*Tylophora* sp.）であるが，持ち帰った腊葉が不完全で未同定である.

奄美大島等で確認されているカバマダラの食草トウワタは，八重山ではほとんど栽培されておらず，これはカバマダラの少ない事を説明しているようである．これに対し，本種が全く別のやや山地性のつる性植物を食草としている事は本種が平地ばかりでなく山地にも少なからず見られる事と一致している.

15　リュウキュウアサギマダラ *Radena similis* L.

本種の食草ツルモウリンカについては久保が〃Insect Magazine〃52号に奄美大島での観察を記録したが，石垣島及び西表島でも同じ食草及びそれに酷似の他の1種（スジグロカバマダラの食草と同一のものと思われる）で摂食中の幼虫を2例目撃した．この類似の植物は前種の際にも触れたが，ツルモウリンカと外形はほとんどちがわないが，茎，葉の切断部からトウワタのように白い汁液を分泌するので一応別種と考えている.

16　オオゴマダラ *Idea leuconoe riukiuensis* HOLLAND

7月28日，中村は与那国島祖納部落附近で本種の産卵を目撃し，2卵を採集，同31日には卵と中令幼虫を見出した．食草はガガイモ科のホウライイケマ（*Cynanchum formosanum* HEMSL.）であった．又，久保も8月17日，沖縄本島で，石川市在住の後藤光男氏の御好意により，同市伊波において同一植物から卵と各令幼虫を得た.

17　コノハチョウ *Kalima inachus eucerca* FRUHSTORFER

本種の食草としては従来「ヤマアイ」及び「リュウキュウアイ」,「オオケタデ」等が挙げられていたが，8月13日石垣島川良山裏のペンサン川上流において2人で調べた結果，キツネノマゴ科のオキナワスズムシソウ（*Strobilanthes Tashiroi* HAYATA）の葉裏より中令幼虫を見出すことが出来た．久保は渡島前から，幼虫が〃黒色大型でヤマアイの葉上に普通に見られる〃との報文を見ていたのでこの幼虫を見つけるのは容易なものと推定していたが意外に発見迄に時間がかかった．8月1日久保は安仁屋氏と共に同地で採集中，♀の産卵行動を目撃したが，本土のヒョウモン類に見られるようにどんなものにも産むらしく，シダ類の葉，枯れたヘゴの幹，苔の生えた石，枯枝，1例の場合にはアカメガシワの幹や葉等にも産卵を認めた．これらの奇異な産卵行動は石垣各地や沖縄本島でも観察された.

幼虫は予想に反し，全く目に触れず，葉上ならぬ葉裏から見出した事は前述したが，これは〃昆虫界〃：2(11)の故江崎悌三博士の報文や，〃Insect Magazine〃37号の森下和彦氏の報文と異なっている．幼虫の形態はすでに知られているが，3令迄は胴部側面に黄色の斑列を有し，体全体にツヤが有るが，老熟したものはビロード様の真黒色を呈し頭部に大型突起1対を持ち，背部にもメスアカムラサキ等に近似の突起列がある．食草オキナワスズムシソウは主に渓谷のふちのうす暗い樹陰に見られ，別名タシロアイとも云う．又，本種の近くに同科のセイタカスズムシソウ（*Strobilanthes glandulifera* HATSUSIMA）が見られたが，中村は沖縄本島中部の屋部村安和及び今帰仁村呉我山ではこれが食草である事を認めているので，恐らく石垣島でも食草の1つであろう.

尚，従来記録された「リュウキュウアイ」,「ヤマアイ」は前記植物の方言か同定違いによるものではないかと思うが，染料として使われているいわゆる「リュウキュウアイ」は，昔から沖縄本島や八重山各地で栽培されていたらしいが最近ではあまり見られないようである．又，この染料のリュウキュウアイは害虫がつきにくいことでも知られている.

18　ヤエヤマイチモンジ *Tacoraea selenophora ishiana* FRUHSTORFER

久保は8月5日，東平地清正氏の案内で石垣島トーロ川上流へ採集の帰途，川岸から延び出たつる性植物の枝先に目をやり，偶然本種の2令幼虫を見出した．食草はアカネ科のヤエヤマコンロンカ（*Mussaenda pubescens*

var. *yayeyamensis* MASAMUNE）であった．他にもう1種同科のアカミズキと思われる灌木からも幼虫を得ているが，この植物については未同定である．

本種の卵そのものはまだ目にしていないが中村は西表島稲葉ノ滝の下流で本種♀の産卵を目撃した．今回観察した所では，少くとも3令までは食草の葉の先端部から中脈を残して喰い，糞を糸で喰い残した葉の先端部に固め，幼虫は枯れた中脈上に静止している．幼虫の色彩は，茶褐色で短かい10対ほどの棘状突起を有する．西表島稲葉ノ滝附近で中村の得た幼虫は脱皮して本土産イチモンジチョウの如き美しい緑色の終令幼虫となった．終令幼虫の棘状突起はイチモンジチョウよりはるかに大きくよく発達している．引き続き飼育の結果1蛹を得たが，完全なものではなかった．しかし頭部にはやはり1対の耳状突起があり，金と銀の斑紋でかざられた華麗な蛹である．

19　ヒメウラナミシジミ *Nacaduba nora kanoi* OMOTO

8月16日，中村は東平地清正氏と裏石垣方面に採集に出かけ，川平と吉原の間で路傍の林縁においしげっているマメ科のモダマ（*Entada phaseoloides* MERR.）の周辺に多数の個体が飛びまわっているのを見出した．丁度開花期であったので，花を調べた所花穂より容易に多数の卵と各令幼虫が見つかった．幼虫は淡緑色で花の間にひそんでいる．

20　ハマヤマトシジミ *Zizeeria knysna karsandra* MOORE

中村は若林氏より台湾では本種がヒユ科のある種を食草としている事を聞いたので，与那国島租納附近で海岸に普通のヒユ科植物（*Amaranthus* sp.）を調べた結果，卵と各令幼虫を見出した．宮古島でも本種の多数飛翔する海岸には必ずこの種の植物が見られる．

21　*Pithecops*. sp.

本種は従来ウライクロシジミ（*Pithecops nihana*）として知られているものであるが，目下白水隆博士のもとで再検討されており，同博士の御教示に従って *Pithecops* sp. としておいた．将来，その分類学上の位置に関する御研究の結果が発表されるものと思う．本種は西表島と沖縄本島の一部に分布が知られているにすぎないが，西表島ではかなり注意して食草を探したが，分からなかった．その後，中村は8月20日，沖縄本島東村福地川へ東平地清二氏と共に本種の食草を探しに行く機会を持った．ツシマウラボシシジミの食草ヌスビトハギに近いものを食するであろう事は推定していたので，すぐにそれとおぼしい植物を見出し，新芽から卵を，若い葉の裏面から終令幼虫1頭を得た．時間がなかったので，それ以上は得られなかったが，この幼虫は羽化させた．幼虫は白色に近く，蛹の形態はツシマウラボシシジミのそれによく似ている．

この時見出した食草はトキワヤブハギ（*Desmodium Tashiroi* MATSUM.）であるが，この食草は実はすでに記録されているものである事を後になって知った（″このは会会報″:第4号）．場所も同じ所のようである．八重山に於ける食草も恐らくこの植物ではないかと思われるので，参考のため記した．

22　タイワンクロボシシジミ *Megisba malaya iwasakii* MATSUMURA

中村は1960年の夏，石垣島バンナーで本種が好んでアカメガシワ（*Mallotus japanicus* MUELL. ARG.）の花に飛来する事に気づいたが1961年8月8日，やはり同じ事に気づいていた久保と，西表島星立，稲葉両部落間の林道脇に生えているアカメガシワを念のため調べて見ることにした．その結果，葉裏より卵を，花蕾より卵と各令幼虫を多数見出す事が出来た．産卵しようとする♀は花蕾や花から遠くない枝や葉の上を歩きまわり．時々止っては腹端を曲げて花蕾や葉裏に1卵ずつ産みつけるのが見られた．得た幼虫はすべて花蕾を食っていたが，葉も食するものであろう．

卵の色は淡緑色で，微小な事と合わせてなかなか見つけにくい．幼虫もオリーヴ色に暗色の不鮮明な斑紋を有し，保護色を呈するが穴のあいた蕾の近くを探せば，花蕾の中に頭を突っこんでいるものや，花蕾の間に身をひそめて休んでいるものを見出すことが出来る．アカメガシワで飼育した幼虫の一部は，その後蛹化し，羽化に至った．蛹の色には紫色がかった暗褐色のものと，淡緑色のものとがあるようであるが，これは蛹化場所によるも

のらしい．

アカメガシワは丁度開花しており，まだ固い蕾からすでに結実したものまで見られたが，同所に生えている同じタカトウダイ科のウラジロアカメガシワ (*Mallotus paniculatus* MUELL. ARG.) はまだ蕾が固かった．そのため調べた所ではわずかに数卵しか得られなかったが，これが開花する頃には，アカメガシワと同じく，好んで食されるものであろう．

尚，中村はその後8月16日に裏石垣太田川尻附近でムクロジ科のアカギモドキ (*Allophylus timorensis* BL.) に本種♀が産卵するのを目撃し，花から卵と幼虫を見出した．従って本種には少くとも2科3種の食草がある．

23 イワカワシジミ *Deudorix eryx okinawana* MATSUMURA

久保は石垣島バンナー附近の林中でクチナシ (*Gardenia jasminoides* ELLIS) の果実より蛹殻1ケを得た．

目録及び成虫の生態に関して

以下の目録には，私達が採集した全個体についてそのデータを記した．ごく普通のものを除いて，私達は出来る限り多数の個体を採集しようと努めたので，実際に夏期に現地で見られる蝶の個体数は，ほぼこのリストから推察していただけよう．特に問題となりそうなセセリ類等は，ほとんど目にしたもの全部を含んでおり，これはいかにセセリが少ないかを物語っている．

地名は前出した若干のものも，読み方はつけなかったが，以下ではあらためて全ての読みにくい地名について，その初出の個所に読み方をつけた．

尚，石垣島は問題ないが，西表島は Iriomotejima と呼び，与那国島は内地ではよく Yonakuni と云っているが現地ではすべて Yonaguni と云っている．又，裏石垣とは川平より野底に至る石垣島北海岸の俗称である．

セセリチョウ科 Hesperiidae

1 オキナワビロウドセセリ *Hasora chromus inermis* ELWES et EDWARDS

石垣島： 川良山 (Karayama), 2♂♂ 10♀♀, 13 VIII '61 (久保，中村)

西表島： 星立 (Hoshitate), 1♂, 8 VIII '61 (久保); 稲葉ノ滝, 4♂♂, 8 VIII '61 (中村)

西表島では夕刻，マングローヴ類の花に飛来するものが見られた．

2 タイワンアオバセセリ *Badamia exclamationis* FABRICIUS

石垣島： トーロ川, 1♀, 5 VIII '61 (久保)

3 アオバセセリ *Chaospes benjaminii formosana* FRUHSTORFER

石垣島： 川良山, 1♂, 6 VIII '60 (中村); 1♂, 3 VIII '61 (久保)

西表島： 星立, 1♂, 1♀, 8 VIII '61 (中村)

今回，白水博士により，台湾産亜種に属するべきものである事が明らかにされた．("蝶と蛾" : 12(3), 1961)

4 コウトウシロシタセセリ *Tagiades trebellius mortinus* PLÖTZ

石垣島： 川良山, 1♀, 4 VIII '60; 1♂, 1♀, 10 VIII '60 (以上中村); バンナー, 1♂, 2 VIII '61; 川良山, 1♂, 3 VIII '61; 名蔵 (Nagura), 2♂♂, 6 VIII '61 (以上久保); オモト岳, 1♂, 15 VIII '61 (中村)

西表島： 船浮 (Funauki), 1♂, 13 VIII '60 (中村); 稲葉, 3♂♂, 3♀♀, 8 VIII '61 (久保，中村); 1♂, 12 VIII '61 (中村)

成虫の習性は内地のダイミョウセセリによく似ており，通常，林間の空地や小径の樹葉上に翅を開いて静止しているが，時々かなり迅速に飛んでは元の位置に戻るものが多い．物におどろくと葉裏に貼りつくように翅を開いて止まる．

5 クロセセリ *Notocrypta curvifascia yaeyamana* SHIRŌZU

石垣島： オモト岳，3♂♂，6 Ⅷ '61（久保）; 1♂，15 Ⅷ '61（中村）

西表島： 船浮，1♂，13 Ⅷ '60（中村）; 稲葉，2♂♂，1♀，8 Ⅷ '61（中村）; 租納（Sonai），1♂，9 Ⅷ '61（中村）

表記の如く，八重山群島の本種は，新たに別個の亜種を形成することが白水博士により示された．（"蝶と蛾"：12(3)，1961）

6 オオシロモンセセリ *Udaspes folus* Cramer

石垣島：バンナー，1♂，31 Ⅶ '60（中村）; 1♂，2 Ⅷ '60（中村）; 川良山，1♂，1 Ⅷ '61（久保）; バンナー，2♂♂，2 Ⅷ '61（中村）; 川平（Kabira）2♂♂，4 Ⅷ '61（久保）; 1♀，16 Ⅷ '61（中村）

西表島： 星立，1♂，9 Ⅷ '61（久保）; 租納，1♂，9 Ⅷ '61（中村）

与那国島： 島仲（Shimanaka），2♂♂，29 Ⅶ '61（中村）

7 ネッタイアカセセリ *Telicota colon stinga* Evans

石垣島： バンナー，1♀，31 Ⅶ '60（中村）; 3♂♂，2 Ⅷ '60（中村）; 1♂，3 Ⅷ '60（中村）; 川良山 1♂，1♀，6 Ⅷ '60（中村）; 1♂，16 Ⅷ '61（中村）

西表島： 稲葉，2♂♂，1♀，8 Ⅷ '61（中村）; 租納，1♂，29 Ⅷ '61〔羽化〕（中村）; 星立，3♂♂，8 Ⅷ '61（久保）

与那国島： 島仲，1♂，29 Ⅶ '61（中村）

平地及至低山地の路傍等に見られ，かなり敏しょうであるが，花に飛来するものは容易に採集出来る．

8 ユウレイセセリ *Borbo cinnara* Wallace

石垣島： バンナー，1♀，2 Ⅷ '60（中村）; 川良山，1♂，4 Ⅷ '60（中村）

西表島： 租納，2♂♂，9 Ⅷ '61（久保，中村）

9 ヒメイチモンジセセリ *Parnara naso bada* Moore

西表島： 租納，1♂，9 Ⅷ '61（久保）

10 チャバネセセリ *Pelopidas mathias oberthüri* Evans

西表島： 稲葉，2♀♀，8 Ⅷ '61；租納，2♂♂，9 Ⅷ '61；稲葉，2♀♀，12 Ⅷ '61（以上中村）

与那国島： 宇良部岳（Urabu-dake），1♂，28 Ⅶ '61（中村）; 比川（Hikawa）. 1♂，29 Ⅶ '61（中村）

11 トガリチャバネセセリ *Pelopidas agna agna* Moore

石垣島： 川良山，1♀，1 Ⅷ '61（久保）; 名蔵，1♂，6 Ⅷ 6'1（久保）; オモト岳，1♂，15 Ⅷ '61（中村）

西表島： 船浮，1♂，13 Ⅷ '60（中村）; 租納，1♀，9 Ⅷ '61（久保）; 稲葉，1♂，12 Ⅷ '61（中村）

アゲハチョウ科 Papilionidae

1 ジャコウアゲハ *Byasa alcinous bradanus* Fruhstorfer

石垣島： バンナー，6♂♂，5♀♀，2 Ⅷ '60; 2♂♂，3 Ⅷ '60; 川良山，1♂，4 Ⅷ '60; 2♂♂，2♀♀，6 Ⅷ '60; 1♂，5♀♀，10 Ⅷ '60; 2♂♂，1♀，27 Ⅶ '61（以上中村）; バンナー，1♂，2♀♀，2 Ⅷ '61; 川良山，4♂♂，3♀♀，3 Ⅷ '61; 崎枝（Sakieda），2♂♂，4 Ⅷ '61; トーロ川，1♂，5 Ⅷ '61（以上久保）; 川良山，2♂♂，13 Ⅷ '61; 裏石垣，1♂，14 Ⅷ '61; オモト岳，1♀，15 Ⅷ '61; 裏石垣，1♀，16 Ⅷ '61（以上中村）

西表島： 租納，1♂，17 Ⅷ '60（中村）

石垣島では普通種で山地林縁のノブドウの花等に集まるが，西表島では極めて少ないらしく1960，61両年を通じて成虫はただ1頭しか得ていない．同時期に石垣島に多産する事から見れば奇妙な事である．与那国島では見なかった．

2　アオスジアゲハ *Graphium sarpedon morium* FRUHSTORFER

石垣島：　バンナー，1♂，2 Ⅷ '60; 1♂，3 Ⅷ '60; 川良山，2♂♂，1♀，6 Ⅷ '60; 3♂♂，4♀♀ 10 Ⅷ '60 (以上中村); オモト岳，1♂，6 Ⅷ '61 (久保)

西表島：　稲葉，2♂♂，14 Ⅷ '60 (中村)

3　ミカドアゲハ *Graphium doson perillus* FRUHSTORFER

石垣島：　川良山，5♂♂，2♀♀，4 Ⅷ '60; 64♂♂，6 Ⅷ '60; オモト岳，1♀，8 Ⅷ '60; 川良山，2♀♀，8 Ⅷ '60; 9♂♂，10♀♀，10 Ⅷ '60; 1♂，27 Ⅶ '61 (以上中村); トーロ川，1♂，5 Ⅷ '61(久保); 川良山，1♂，14 Ⅷ '61 (久保); 川平，1♂，16 Ⅷ '61 (中村)

西表島：　船浮，1♂，13 Ⅷ '60; 稲葉，4♂♂，14 Ⅷ '60; 租納—白浜，1♀，9 Ⅷ '61 (以上中村)

前種と共に好んでノブドウの花に群集する．又，西表島で得た♀はハスノハギリの花に来ていた．♂は吸水するために水のある所に来るが，西表島浦内川 (Urauchi-gawa) の中，上流の川床の岩盤には，キチョウ類，アオスジアゲハと共に本種が集まっているのが見られた．石垣島の川良山では1960年夏には，実におびただしい数の本種が発生し，ことに8月6日は最盛期であったらしく，羽化したばかりの目もさめるように美しい数百頭が文字通り乱舞し，折りから満開のノブドウをおおいかくさんばかりであった．又この時には，カラカラに乾いた道路を地上10cm位の高さで行きかうものが少なからず見られた．8月6日には，ほとんど全てが♂のようだったが，10日にはすでに四散して数は著しく減じており，♂はほとんど破そんしていたが，そのかわりかなりの数の新鮮な♀が見られた．

前年このように大発生した本種も，翌1961年には，個体数極めて少なく，意外に思ったが，このような個体数の年ごとの著しい増減は他の種にも見られる所であって，亜熱帯及至熱帯に特有な現象の一端を示しているもののようである．私達は夏の八重山しか知らないが，季節的にも，かなり大きな変化があることと思う．尚，八重山の本種は一般に大型で，青味が強く，極めて美しい．この強い青味のため，最初のうちはアオスジアゲハと見紛う事が少くなかった．

4　アゲハチョウ *Papilio xuthus xuthus* L.

石垣島：　バンナー，1♂，2 Ⅷ '60 (中村)

西表島：　星立，1♀，9 Ⅷ '61 (久保); 租納，1♀，9 Ⅷ '61 (中村)

少くとも夏期にはかなり稀なものらしく，これ以外には西表島で1頭目撃しただけである．尚，東平地清正氏より久保宛の私信によれば，石垣島では同年11月上旬，成虫が比較的多く見られた由である．

5　シロオビアゲハ *Papilio polytes* L.

石垣島：　バンナー，1♂，1♀，2 Ⅷ '60; 1♂，1♀，3 Ⅷ '60; 川良山，1♂，4 Ⅷ '60; 石垣市，1♀，5 Ⅷ '60; 川良山，1♀，6 Ⅷ '60 (以上中村); トーロ川，1♂，5 Ⅷ '61 (久保); 川良山，1♀，14 Ⅷ '61 (久保)

与那国島：　比川，2♀♀，29 Ⅶ '61 (中村)

普通であるが，特に多いと云うほどでもない．古くから石垣島には *panmon* 型の♀は知られていないようで私達も全く見かけなかったが，八重山群島中最南に位置する波照間島 (Hateruma-jima) には産するらしい．中村は上記の如く与那国島比川部落内のブッソウゲに飛来した2♀♀を得たが，これは興味ある記録である．即ち，故江崎悌三博士も〝昆虫界〟2(11)の文中に特筆されている如く，従来，与那国島には産しないとされて来たものだからである．同島ではこの2頭以外には見ていないので，土着しているかどうかは決めかねる．尚西表島では全く目撃していない．

6　クロアゲハ *Papilio protenor liukiuensis* FRUHSTORFER

石垣島：　バンナー，1♂，2 Ⅷ '60; 1♂，1♀，3 Ⅷ '60; 川良山，2♂♂，6 Ⅷ '60; 1♂，1♀，10 Ⅷ '60 (以上中村); バンナー，2♀♀，2 Ⅷ '61; 川良山，2♀♀，3 Ⅷ '61; 2♀♀，14 Ⅷ '61 (以上

久保)

西表島： 稲葉，1♀，8 Ⅷ '61（中村）；白浜，1♂，9 Ⅷ '61（久保）；租納，1♂，11 Ⅷ '61（久保）

与那国島： 比川，2♂♂，29 Ⅶ '61（中村）；宇良部岳，3♂♂，1♀，31 Ⅶ '61（中村）

八重山に産する本種の尾状突起の長さは，特に♂においては，非常に変異があり，内地のものとほとんどちがわぬものから，痕跡的なものにまで及ぶ．八重山群島が有尾型の本種を産する地帯の末端であり，台湾には無尾のものを産する事から考えると，非常に興味深い問題であろう．♀は後翅の赤色弦月紋がよく発達し，美しいが，これが著しく発達して2列になった極めて美しい異常型が，ab. *ishigakianus* Hirayama（"虫の世界"：3）として知られているが，中村が1960年8月10日に石垣島川良山で得た1♀がこれであった（Fig. 1）．この個体の弦月紋は紫色を帯びた濃赤色で，内地のクロアゲハのように橙色を帯びていない．

7 カラスアゲハ *Papilio bianor junia* Jordan

石垣島： バンナー，1♂，2 Ⅷ '60；2♂♂，3 Ⅷ '60；川良山，1♀，4 Ⅷ '60；2♂♂，6 Ⅷ '60；5♂♂，2♀♀，10 Ⅷ '60；川良山，1♂，27 Ⅶ '61（以上中村）；4♂♂，1 Ⅷ '61；1♂，3 Ⅷ '61；崎枝，2♂♂，1♀，4 Ⅷ '61；トーロ川，5♂♂，5 Ⅷ '61；名蔵，3♂♂，6 Ⅷ '61；川良山，1♂，13 Ⅷ '61；3♂♂，14 Ⅷ '61；裏石垣，2♂♂，14 Ⅷ '61（以上久保）；オモト岳，1♂，15 Ⅷ '61（中村）

西表島： 租納—白浜，1♂，13 Ⅷ '60（中村）；租納，1♂，2♀♀，8 Ⅷ '61（久保）；稲葉，1♂，8 Ⅷ '61（中村）；白浜，3♂♂，9 Ⅷ '61（久保，中村）

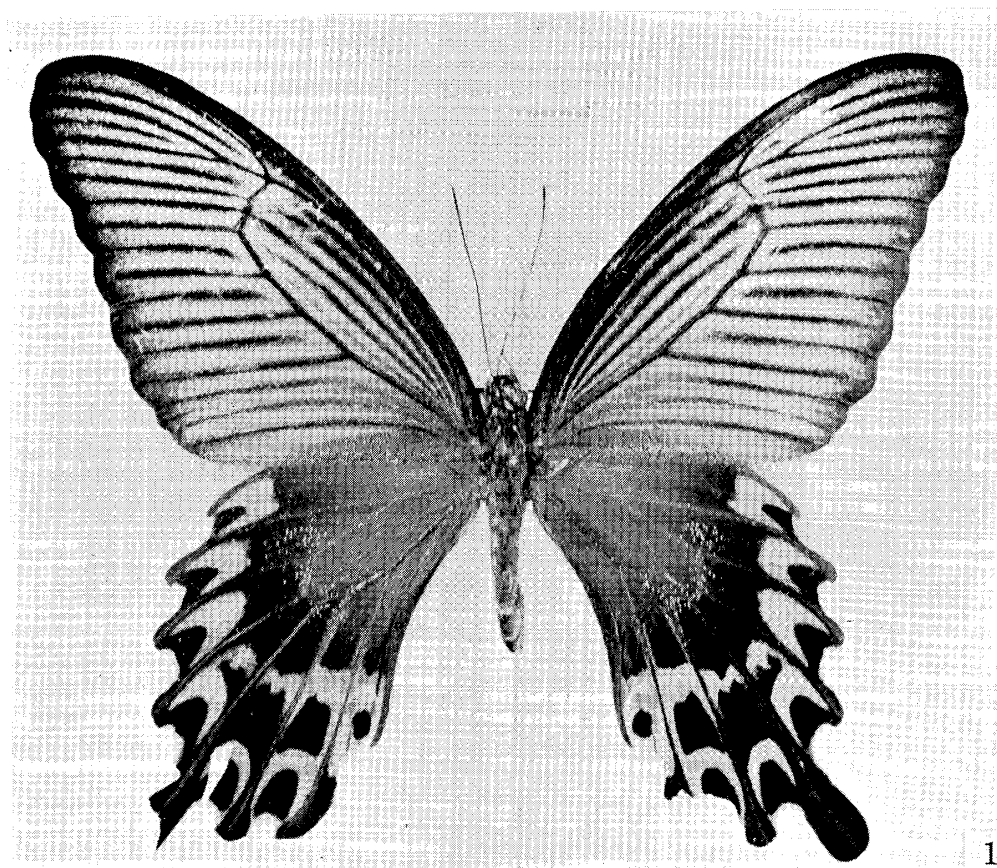



Fig. 1 *Papilio protenor liukiuensis* Fruhstorfer，♀，ab. *ishigakianus* Hirayama 石垣島川良山 1960年8月10日

八重山群島の本種は沖縄本島のものと亜種を異にし，むしろ一見タイワンカラスアゲハに似る．屋久島におけるミヤマカラスアゲハ同様，山地に限らず海岸近くの路上等でも見られる．また，西表島ではマングローヴの赤い花（オヒルギ，又はベニガクヒルギ）にクロアゲハと共に，ゆっくりと舞いながら訪れ，幻想的な美しい光景が見られた．その他，クサギ，ブッソウゲ等に飛来する．尚，与那国島では宇良部岳と新川鼻との間の森林地帯で目撃した．

8　ナガサキアゲハ　*Papilio memnon pryeri* Rothschild　(Figs. 2, 3)

石垣島：　名蔵，1♂，6 VIII '61（久保）

台湾や沖縄本島に普通な本種が八重山群島に産しない筈はないと思うが，八重山からの確実な採集記録は少なく，私達も上の個体以外は全く見かけていない．この個体はオモト岳登山の帰途，名蔵川上流で飛翔中のものを採集したものであるが，前後翅共，表面の銀色鱗は良く発達する．尚，同島及び西表島ではミカン類の栽培はほとんど行なわれていないようで，半野性化したシークヮーシャーが目につく程度である．

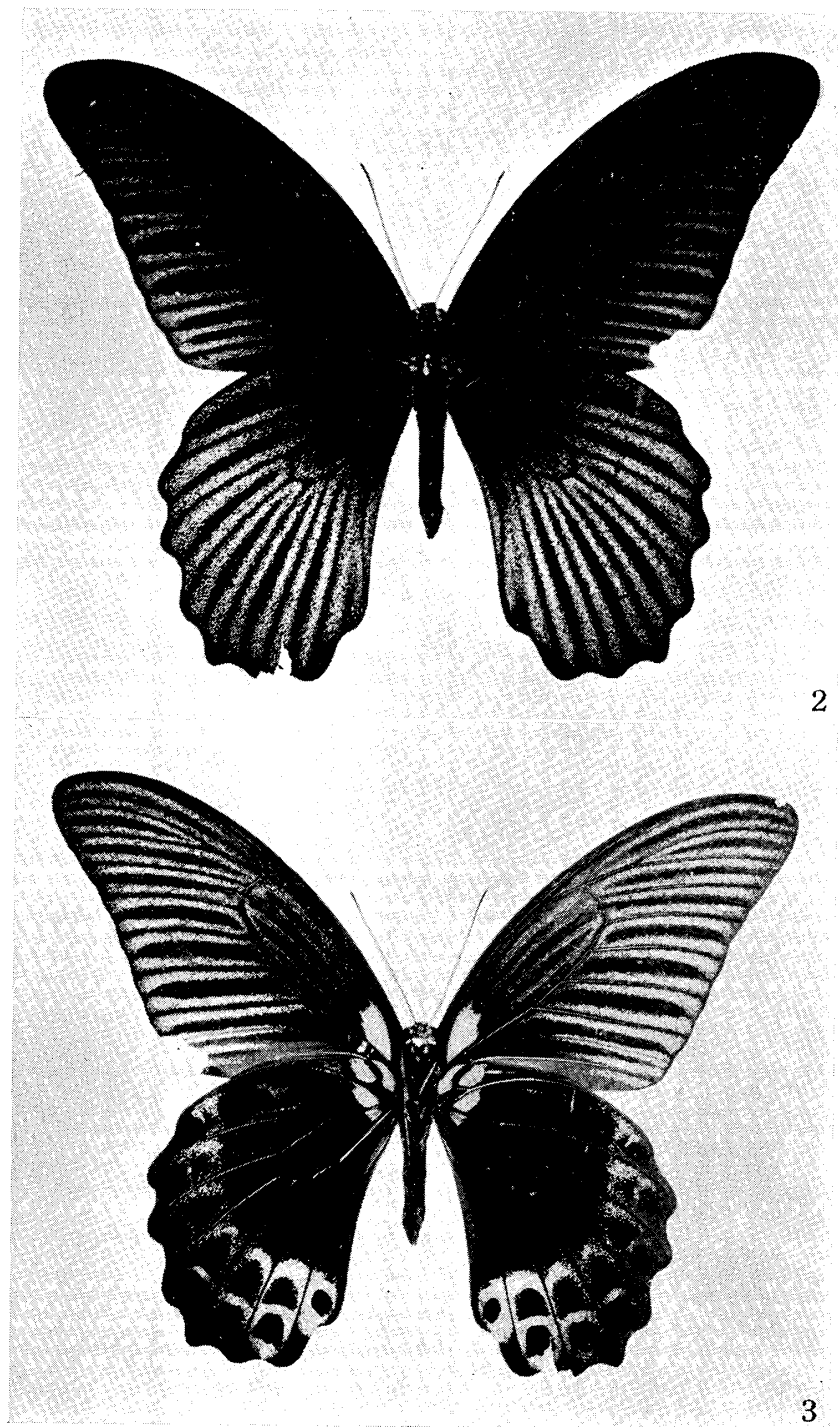



Fig. 2　*Papilio memnon pryeri* Rothschild, ♂,
石垣島名蔵，1961年8月6日，表面
Fig. 3　同　裏面